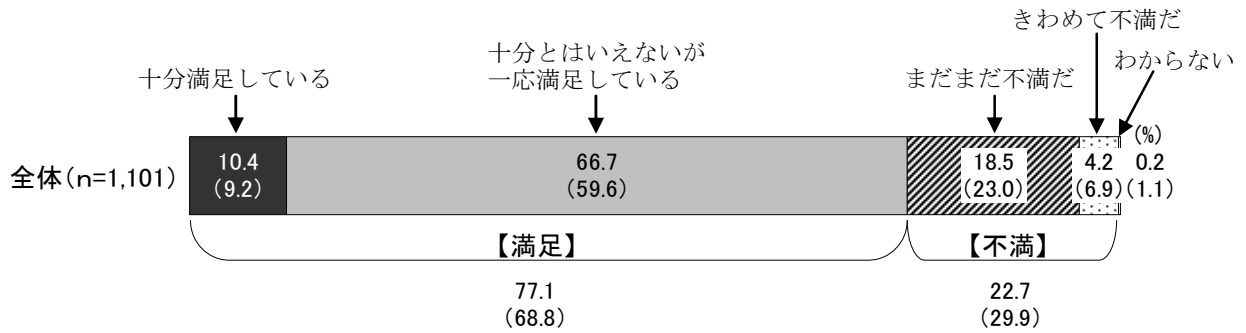


# I 生活意識

## 1. 暮らし向きの満足度

—【満足】が約8割—

問1 あなたは、現在の暮らし向きについてどう思っていますか。次の中から一番近いものを1つだけ選んでください。



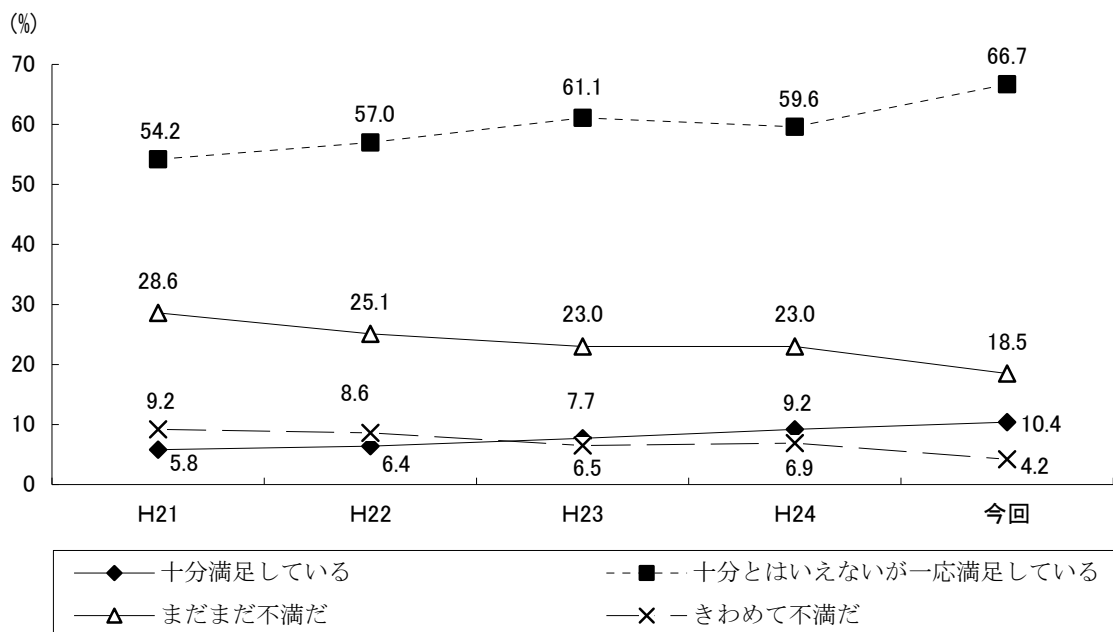
※( )内の数値は、平成24年の調査結果

暮らし向きの満足度としては、「十分満足している」(10.4%)と「十分とはいえないが一応満足している」(66.7%)を合わせた【満足】(77.1%)が約8割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(18.5%)と「きわめて不満だ」(4.2%)を合わせた【不満】(22.7%)は2割を超えている。

—【満足】が約8ポイント増加—

前回調査(昨年)と比べると、【満足】が約8ポイント増加している。

図I 1-1 暮らし向きの満足度(時系列)



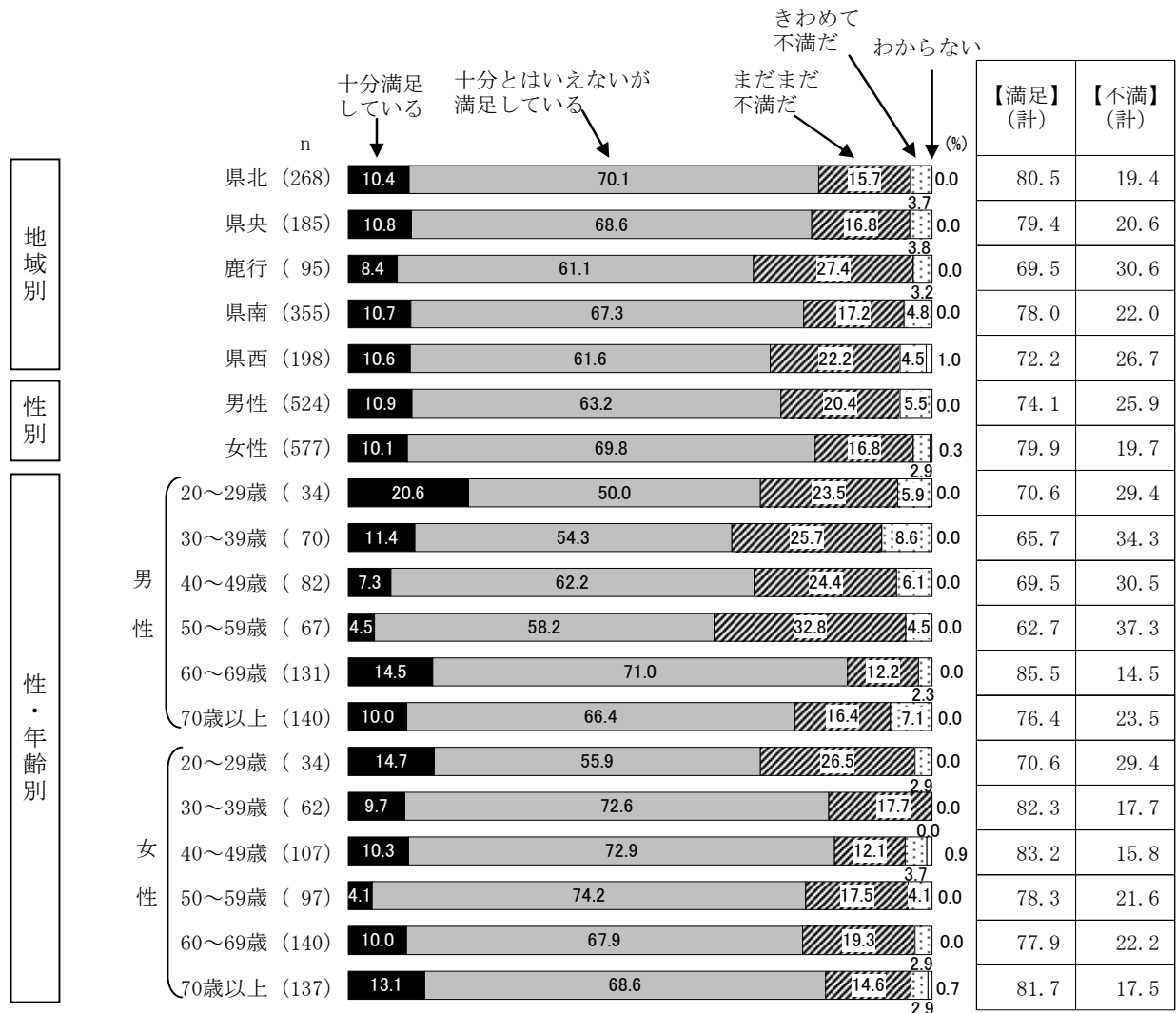
—女性で【満足】が男性よりも約6ポイント高い—

性別でみると、【満足】は、女性（79.9%）が男性（74.1%）よりも約6ポイント高くなっている。

—男性の60代、女性の40代で【満足】が8割台半ば—

性・年齢別でみると、【満足】は、男性の60代（85.5%）と女性の40代（83.2%）で8割台半ばと高くなっている。

図 I 1-2 暮らし向きの満足度（地域別、性別、性・年齢別）

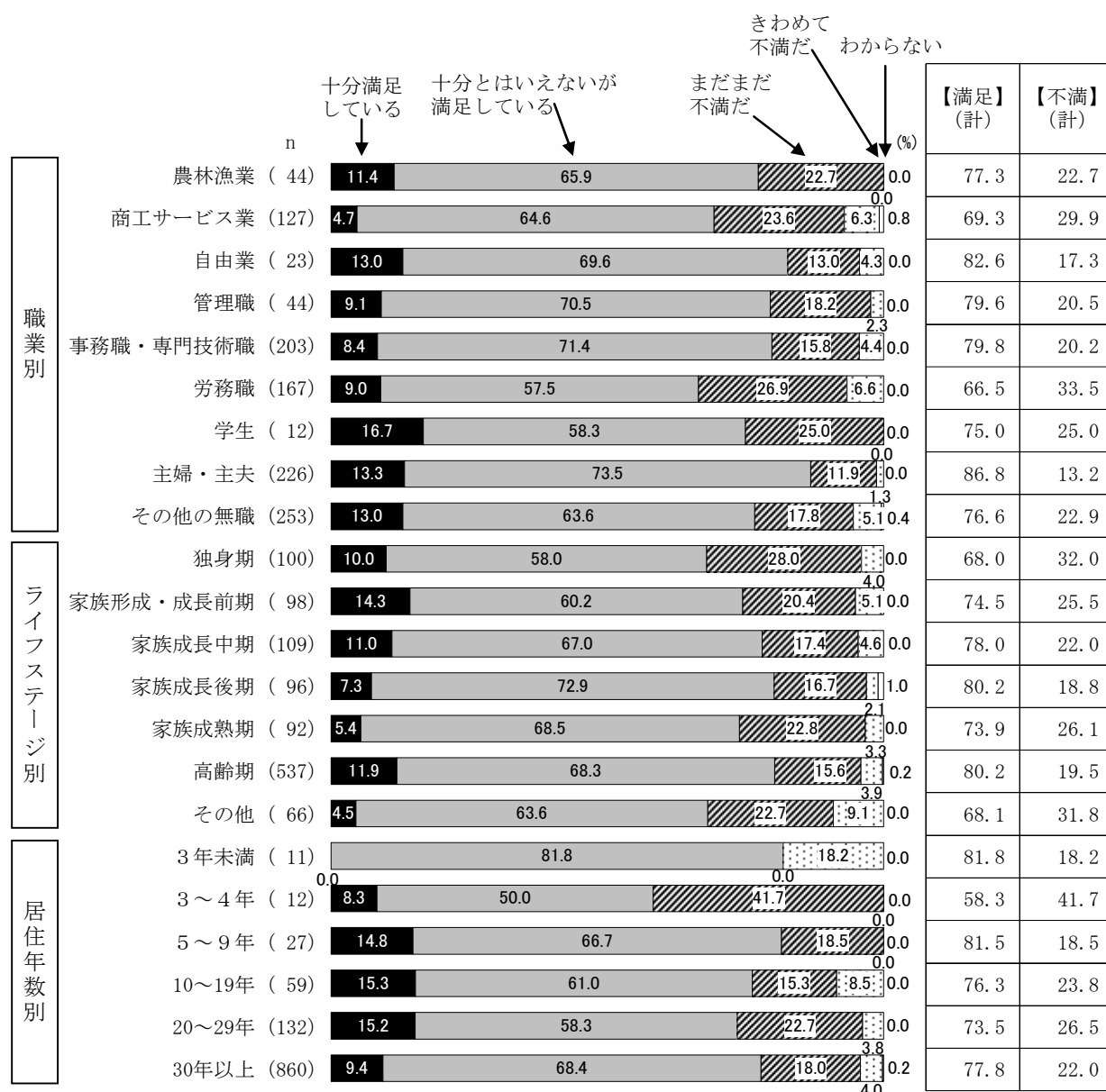


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

—主婦・主夫で【満足】が8割台半ば—

職業別でみると、【満足】は、主婦・主夫（86.8%）で8割台半ばと最も高くなっている。

図 I 1-3 暮らし向きの満足度（職業別、ライフステージ別、居住年数別）

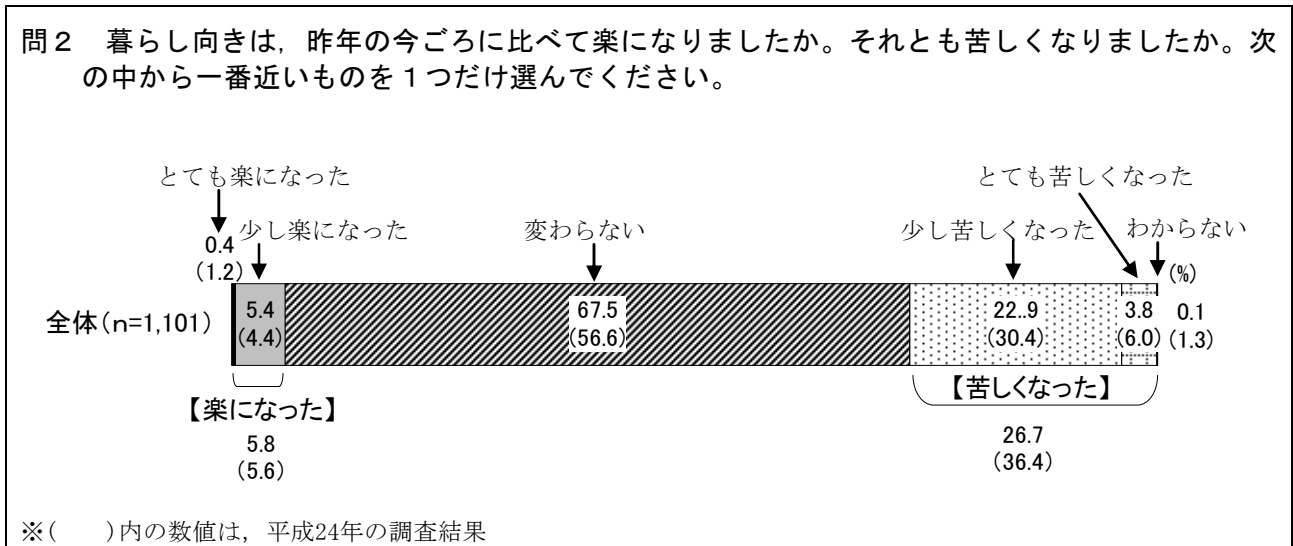


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

## 2. 暮らし向きの変化

### (1) 暮らし向きの変化

—「変わらない」が約7割—

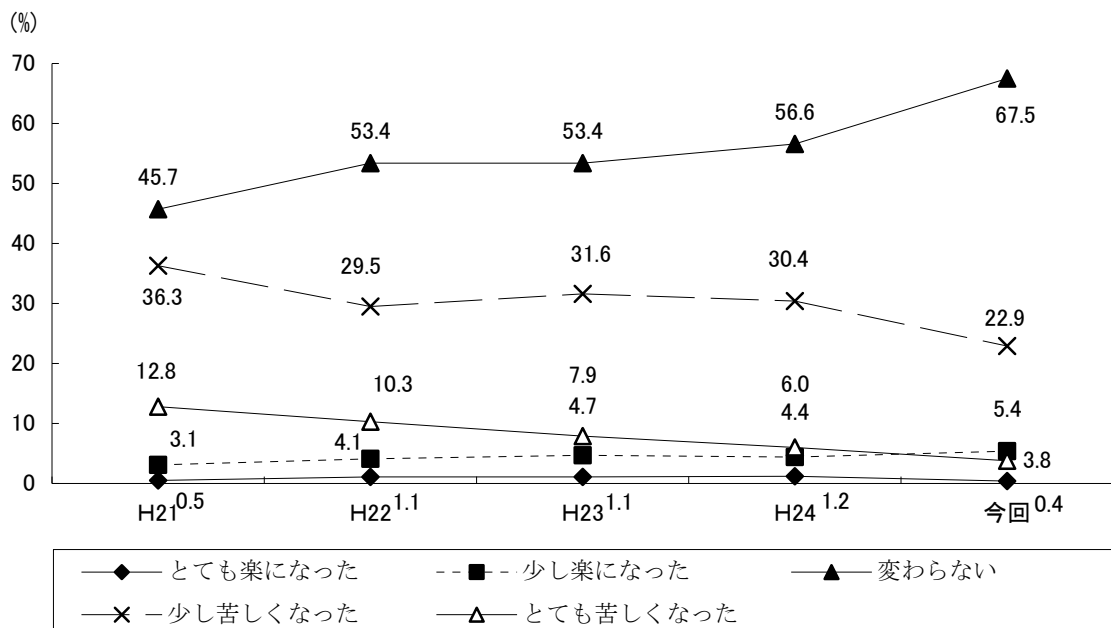


暮らし向きの変化としては、「変わらない」(67.5%)が約7割となっている。一方、「少し苦しくなった」(22.9%)と「とても苦しくなった」(3.8%)を合わせた【苦しくなった】(26.7%)は2割台半ばとなっている。

—【苦しくなった】が約10ポイント減少—

前回調査(昨年)と比べると、【苦しくなった】が約10ポイント減少している。内訳として「少し苦しくなった」が約8ポイント減少している。

図I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



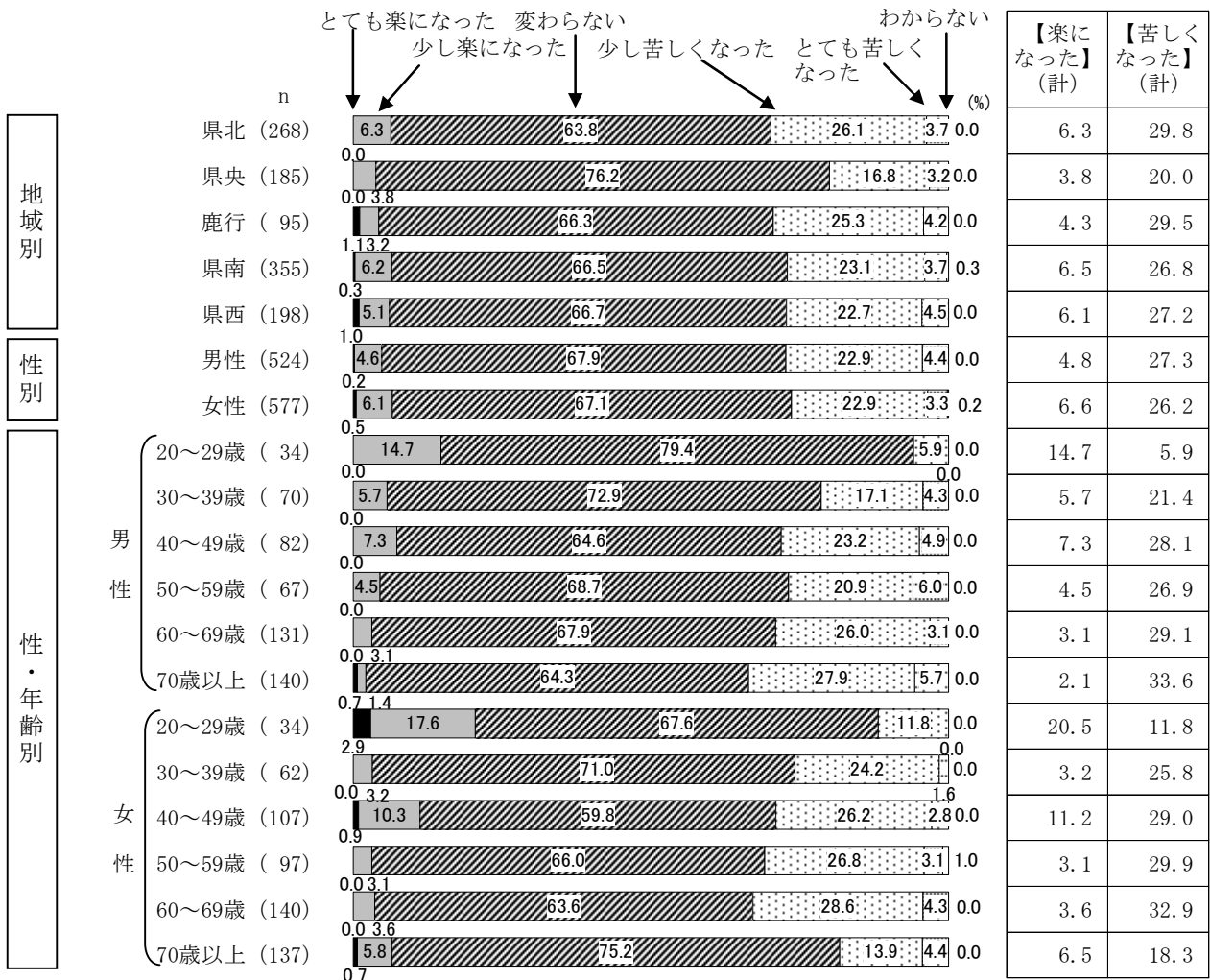
— 県央で「変わらない」が7割台半ば —

地域別でみると、「変わらない」は、県央（76.2%）で7割台半ばと最も高くなっている。

— 男性の20代で「変わらない」が約8割 —

性・年齢別でみると、「変わらない」は、男性の20代（79.4%）で約8割と最も高くなっている。一方、【苦しくなった】は、男性の70歳以上（33.6%）と女性の60代（32.9%）で3割台前半と高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化（地域別，性別，性・年齢別）



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

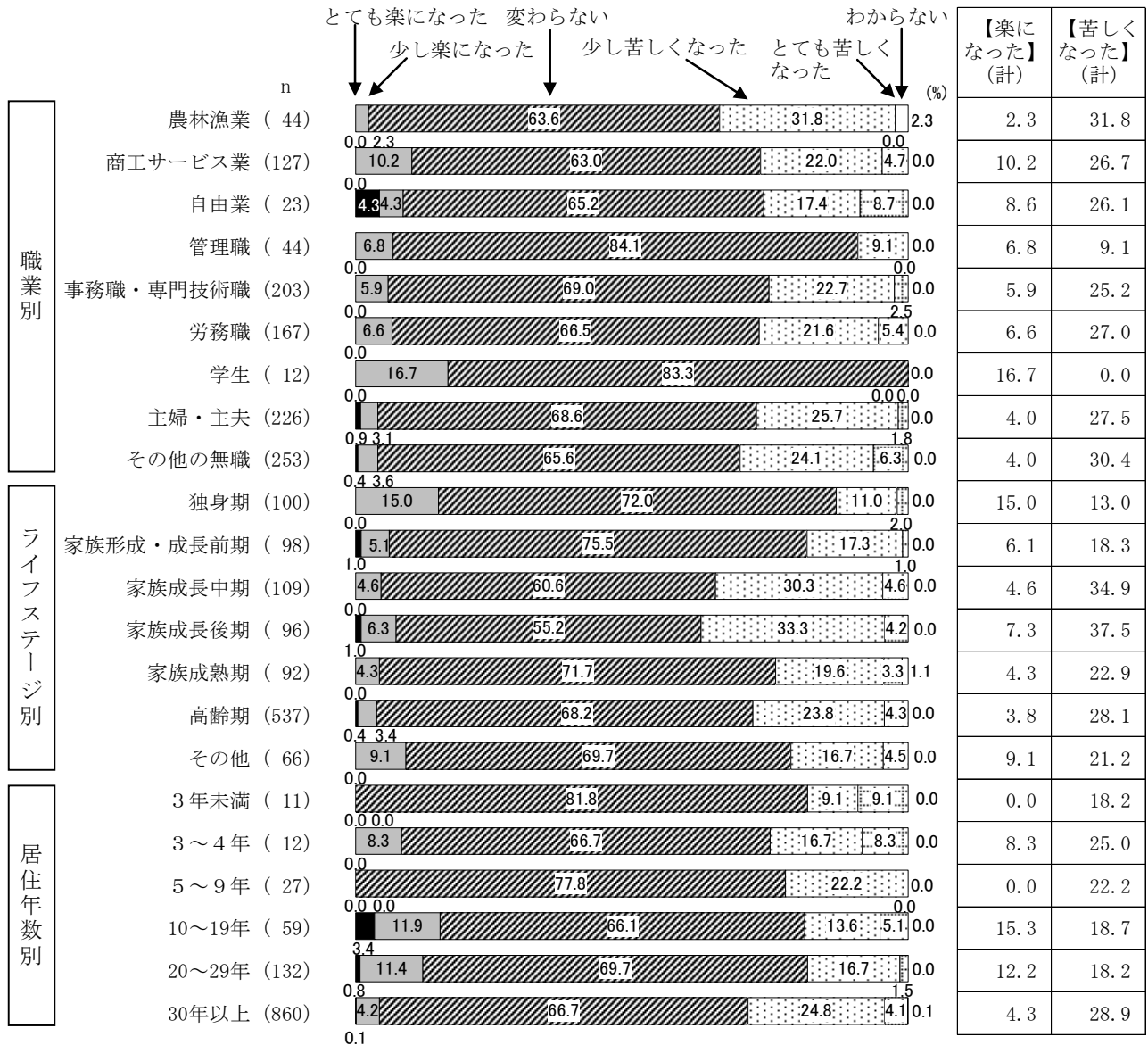
—農林漁業とその他の無職で【苦しくなった】が3割前半—

職業別でみると、【苦しくなった】は、農林漁業（31.8%）とその他の無職（30.4%）で3割前半と高くなっている。

—家族成長中期と家族成長後期で【苦しくなった】が3割台—

ライフステージ別でみると、【苦しくなった】は、家族成長後期（37.5%）と家族成長中期（34.9%）で3割台と高くなっている。

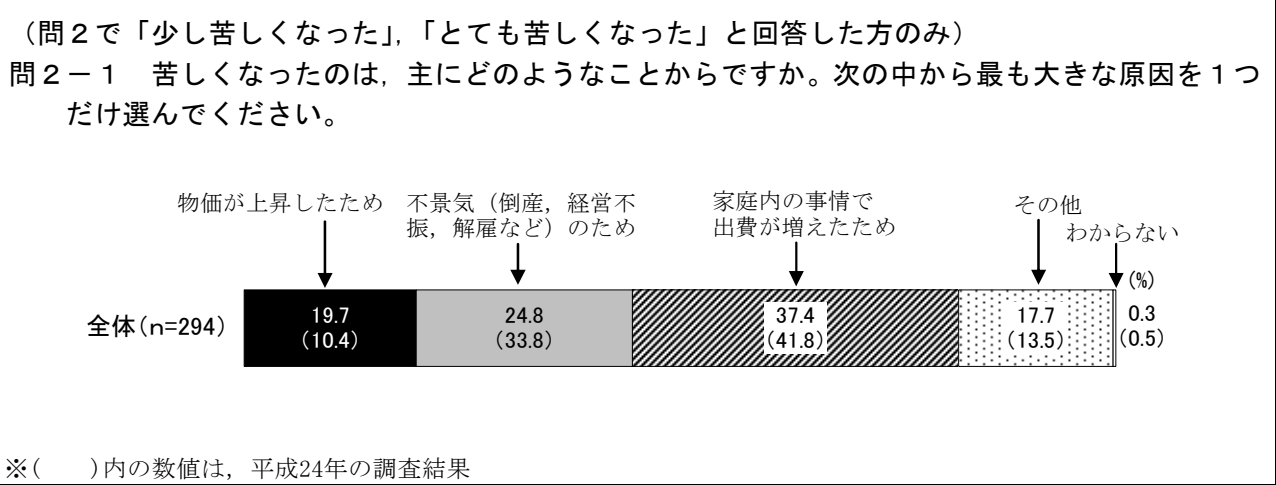
図 I 2-3 暮らし向きの変化（職業別、ライフステージ別、居住年数別）



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

(2) 苦しくなった理由

—「家庭内の事情で出費が増えたため」が約4割—



暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「家庭内の事情で出費が増えたため」(37.4%)が約4割と最も高く、次いで、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」(24.8%)が2割台、「物価が上昇したため」(19.7%)が1割台で続いている。

—「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」が9ポイント減少—

前回調査（昨年）と比べると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」が9ポイント減少している。一方、「物価が上昇したため」が約9ポイント増加している。

—県南で「家庭内の事情で出費が増えたため」が約5割—

地域別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、県南（47.4%）で約5割と最も高くなっている。

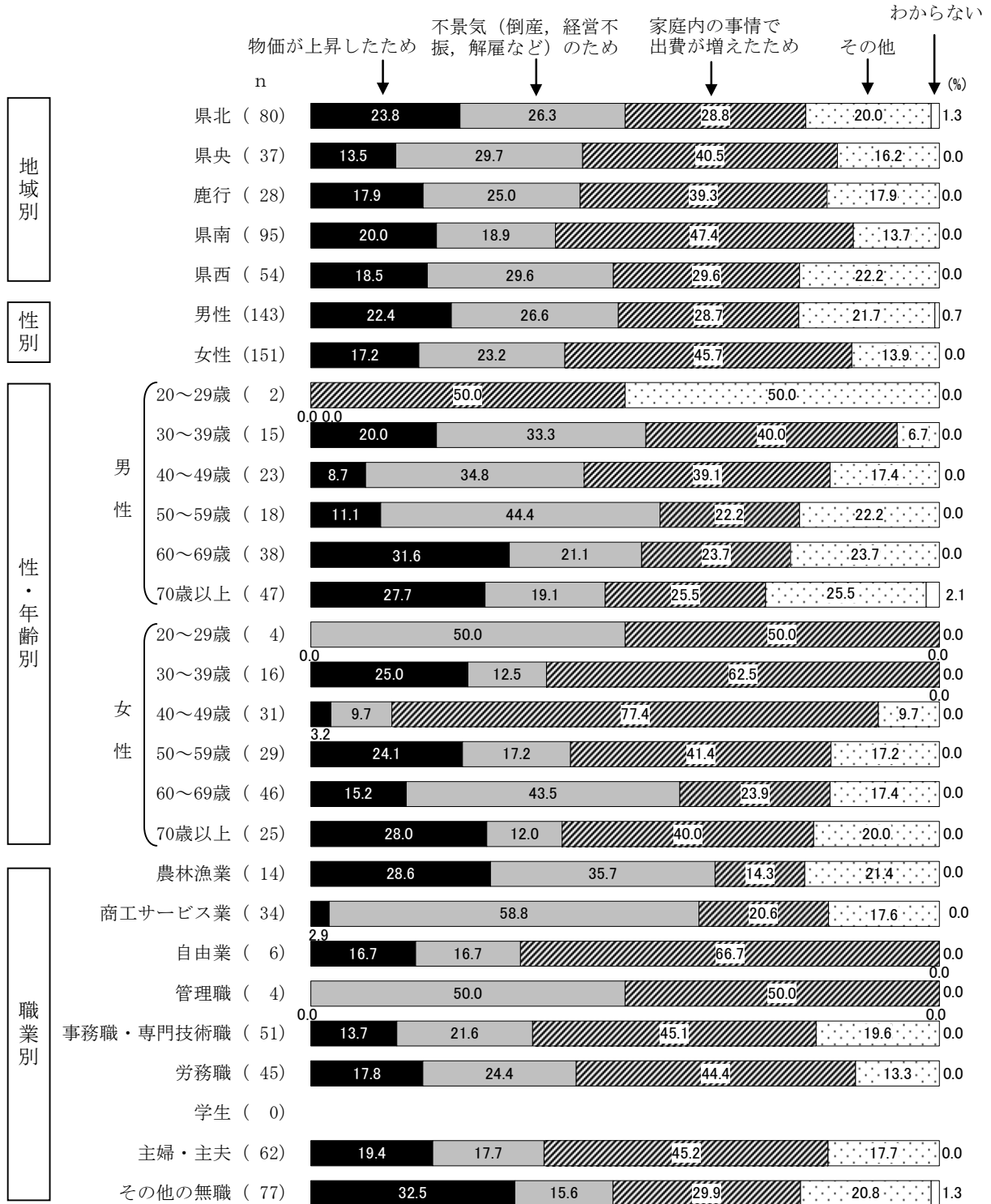
—女性で「家庭内の事情で出費が増えたため」が男性よりも17ポイント高い—

性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性（45.7%）が男性（28.7%）よりも17ポイント高くなっている。一方、「物価が上昇したため」は、男性（22.4%）が女性（17.2%）よりも約5ポイント高くなっている。

—商工サービス業で「不景気（倒産，経営不振，解雇など）のため」が約6割—

職業別でみると、「不景気（倒産，経営不振，解雇など）のため」は，商工サービス業（58.8%）で約6割と最も高くなっている。

図 I 2-1-1 苦しくなった理由（地域別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。